

◇平成23（2010）年9月14日 文教市民委員会

No.26 灰垣委員

今、高齢化率が、ご承知のとおり、昨年10月の国勢調査で23.1%ということで、4人に1人に近い方たちが65歳以上というふうになっています。また、日本は、ご存じのとおり、これも長寿国で、男性が80に近い、79.5歳だったと思いますけど、女性が86歳を超えていると。非常に長寿国で、これは医療技術等も関連してくることだと思うんですが、実は、健康寿命というのは10歳以上、この平均寿命からすると低いんです。先ほど部長もお話がありましたけれども、健康増進ということを考えてときに、今、60歳もしくは65歳ぐらいでリタイアをされる。今まで、中には企業戦士という形で仕事一本でこられた方たちがリタイアをして、さあ、どうしようという、ある意味では行き場所がないとか、居場所がないと、そういった方たちも多く見受けられます。その果てに、引きこもり、果てには自殺というようなことも考えられる。そういうことを考えたときに、やはり高齢者の方たちの居場所づくりということを考えれば、こういった場所が必要になってくるというふうに私は思っております。

きのうの報道でも、100歳以上の人口が4万7,760人でしたか、それぐらいの人口になってきていると。ただ単に長生きするというだけじゃなくて、やはり健康で長生きということが非常に重要になってくると思う。当然、グラウンド・ゴルフだけではないのも事実です。いろんなスポーツ団体もございますし、高齢者対象でいけば、先ほど出ましたゲートボールとかインディアカとか、ディスコンとか、社交ダンスとかフォークダンスも、こういったスポーツの中に入るようにも聞いておりますけれども、やはりそういった方たちの居場所づくりというのをどう高槻市として構築していくかということは、今後の課題だと私は思っています。

私も、8年前になりますけど、総合型地域スポーツクラブを高槻でもっと建設していくべきであるということをご質問でも取り上げさせていただきましたけれども、そういったことも踏まえて考える必要があると思います。

結果ですけれども、医療費の、また介護費の削減にも結果的にはつながっていくと。毎年、1兆2,000億円、膨らみ続けるこの医療費の削減にも、微々たるものかもしれませんが、そういったことも結果的には出てくるわけで、やはりそういった場所がないとできないということを考えれば、現在、高槻でグラウンド・ゴルフが7か所ぐらいできる会場があるとは聞いていますけれども、やはりそういったことをさらに今後整備していくことは必要であるということをご申し上げて、意見とさせていただきます。

以上です。